

令和6年(2024年)12月18日

(別紙)

湖南市長 松浦 加代子 様

湖南市自殺対策計画策定委員会
湖南市健康こなん21計画策定委員会

委員長 安西 将也

第3次健康こなん21計画(案)の策定について(答申)
(第2次湖南市自殺対策計画および第3次健康増進計画・食育推進計画)

令和5年(2023年)7月25日付湖健第282号で諮問のありました第2次湖南市自殺対策計画(案)および第3次健康こなん21計画(健康増進計画・食育推進計画)(案)について、当策定委員会により慎重に審議した結果、別紙のとおり答申します。

なお、本策定委員会の審議過程で各委員から出された意見や答申内容に十分配慮され、基本理念である「生涯を通じて人が輝ける健康なまちづくり」の実現に向け、本計画を着実に推進されるよう求めます。

人間にとって「こころ」と「からだ」は密接に関わっており、この2つの重要な要素を健康づくり施策において切り分けるのではなく両輪で取り組むことにより、効果的・効率的かつ包括的に推進することができます。そのため、第1次自殺対策計画および第2次健康こなん21計画(健康増進計画・食育推進計画)の施策分野の位置づけを再構築した上で各計画を統合し「第3次健康こなん21計画(案)」として策定しました。

特筆すべき点として、地区計画の策定においては、健康づくりの視点からまちづくりの将来像を市独自のオリジナルストーリーとして描くことなどオンリーワンの計画としてまとめられたことは、大変意義深いものとして総括しつつ、次の内容を本策定委員会の意見として申し添えます。

- (1) 今後、本計画における基本計画および地区計画をもとに生活習慣病の予防や自殺対策等に関する施策を多岐にわたり推進することになるが、職員や関係機関・団体など担い手には限界があることから、次のことにおける積極的な関係構築を求める。
 - ① 地域をはじめ「オールこなん」で健康づくりの取組を進められるよう理解と協力を求め、ソーシャルキャピタルの向上を図ること。
 - ② 自殺リスクがある当事者への寄り添い支援をより手厚くできよう関係機関との密接な連携を強化し、効率的・効果的なスキームを確立すること。
- (2) 外国人比率が県内で最も高い自治体であるが、特段の施策を講じるに至っていない現状にある。日本文化と外国文化との橋渡し役となる外国人キーマンを発掘し、外国人における健康課題を速やかに把握すること。
- (3) 気候変動の影響による熱中症など近年における新たな健康被害が生じていることから、関連情報については迅速で正確な情報の周知とともに適切な対策を講じること。
- (4) 市民一人ひとりに合った「こころ」と「からだ」の健康づくりを推進するため、国・県・周辺市町の動向に注視するとともに、健康施策に関する先進自治体の調査研究など知見を深めながら創意工夫をもって施策を実行すること。